

オーケストラ・アンサンブル金沢の夢幻能「月に憑かれたピエロ」金沢公演(財団法人県芸術文化協会、北國新聞社共催)は12月5日、金沢市の県立音楽堂コンサートホールで行われる。演出とプロデュースを手掛け、主演するウィーン在住のソプラノ歌手、中嶋彰子が公演にかける思いを語った。

「月に憑かれたピエロ」金沢公演 来月5日

私は、文化的冒險をするのが大好きだ。現在もウィーンを拠点にして、様々なオペラに出演させて頂いているが、単なるソプラノ歌手では収まらないとよく言われる。これまで、箏の伴奏で歌つたり、分離派の音楽だけを演奏する樂団を作つたりしてきた。そんな私が心に長く暖めてきた企画の一つが、今回の公演である。

この公演は「月」をキーワードに、20世紀を代表するオーストリアの作曲家A・シェンベルクの前衛的な音樂「月に憑かれたピエロ」が展開するピエロの物語と、「能」の幻想的な世界が、舞台上で交錯するという革新的なものである。

このアイデアが降ってきたのは、ある満月の夜のことである。京都の寺の縁で座禅を組んでいた私の脳裏に「月に憑かれたピエロ」の一節が浮かんできた。その不協和音の響きが現すダイナミックな

オペラと能融合 時空を超える



ソプラノ歌手の中嶋彰子

中嶋彰子 構想10年、幻想世界を形に

音楽世界に身をゆだねていると、そのうちに日本の月のイメージが現れ、二つが重なり、不思議な世界を形作り始めたのである。それは、私を驚かせた。オーストリアと日本の9000キロという距離と、能が受け継がれてきた数百年という時間の、時空を超えた衝撃的な融合であったからだ。

あれから10年。「月に憑かれたピエロ」初演から100年といつ節目の今年、私の胸の中で大切に育ててきた世界が、やっと現実に姿を現す。

舞台では私がピエロを演じ、その空想に現れる登場人物(女、般若、老女)を笙流能樂師の渡邊苟之助が舞う。指揮はウィーンからニルス・ムースを迎え、金沢能樂会の能樂師、オーケストラ・アンサンブル金沢のメンバーも演奏に加わる豪華な布陣が実現した。

また、金沢出身の映像作家・高岡真也による字幕・映像が5つのバックスクリーンに映し出され、コンサート会場は宇宙的な空間に変化する。これまでに見たことのない幻想的で美しい舞台作品となるだろう。ぜひ多くの方に、この歴史的な芸術の冒險に立ち会って頂きたいと思う。

午後7時開演。入場料は1階席4千円、2階席3千円。

チケット発売中